

進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	とちぎ新型コロナウイルス対応緊急助成事業
資金分配団体:	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク
実行団体数:	8団体
実施時期:	2021年4月～2021年3月
事業対象地域:	栃木県
事業対象者:	①経済的困窮家庭の親子、医療的ケアを必要とする在宅療養児者。②失業者および学生を含む若者、障害者・難病者、外国人等の孤立化また孤立化予備群。③コロナ禍による生活困難等の社会課題解決に立ち向かう若者

Version 1.0

日付: 2021年11月23日

I. 事業概要

事業概要
コロナ禍によりこれまで顕在化していた生きづらさを抱えた方々がさらに重く深い困難な状況であること、また新たなる困難を抱えた方が増加している背景を捉えて、本事業では、社会的課題解決型チームの掘り起こし、組織力や新たな課題解決策の開発を踏まえた課題解決力の強化を行い、困難を抱えている方を支えていく取り組みを支援する。加えて、採択された課題解決型チームと機能的なネットワークを形成し、民間による「もう一つのセーフティネット」をつくる。対象地域(栃木県)を限定し、新たな次世代の担い手を育みながら実践的なネットワークと重層的支援ができる社会環境に寄与することを目指す。

II. 進捗報告の概要

総括
実行団体は、概ね、計画の通り進めることができている。また定期的なミーティングやマネジメント研修等を重ねていくうちに、団体間の関係性も強くなっている。事業の相談、協力、連携等も起き、「もうひとつのセーフティネット」形成へも実体化・機能化し始めている。また休眠預金の活用により生まれている地域への成果をより広く届けるために情報発信サイトの再構築も行い、県内の地域課題解決に立ち向かう団体と応援したい人が繋がりあるプラットフォームの機能化に今後注力していく。

III. 活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
①申込数20件以上、採択件数(掘り起こし)10件以上の実現 ②会員・寄付・ボランティア・職員数の増加(組織力強化):申請時より会員、寄付、ボランティア、職員数が増加の状態へ変化 ③オンライン・オフラインで定期的な課題共有・意見交換等のネットワーク会議を2021年度内5回(約2か月に1回)の実施(ネットワークとセーフティネット形成)	①申込者17件、採択件数8件 ②アンケートフォーム策定中、未実施。 ③6月29日、8月24日、10月26日の計3回ネットワーク会議を行い、予定通り進んでいる。

実行団体名	進捗状況	概要
特定非営利活動法人子どもの育ちを応援する会	遅延あり	毎月小学校にてお弁当の配布会を実施。緊急事態宣言中はボランティアスタッフの制限をしたりドライブ方式にしてなるべく短時間かつ接触の少ない方法でお弁当の配布を柔軟に行っていた。現時点で1200食ほど配布をした。家庭訪問や家庭相談支援SVを行った。食品寄付では偏りがあるため常にバランスよく食品を確保するためにも多団体との連携を進めていく必要がある。11月より小学校と連携して朝カフェがスタート。子ども達がパンなどの軽食を取れるように毎週月曜日開催。朝食を理由に学校に来るきっかけにもなっている。広報物を作成予定だが行政と連携をすることを考えているためまだ進んでいない。
特定非営利活動法人風車	計画通り	学習支援については、大学生たちの協力により子供たちも勉強だけでなくゲームをしたり工作をしたりと楽しく時間を過ごすことができている。 タブレットを導入したことで自ら調べものをしたり動画を見たりなど障がい者の仲間にとっても楽しい時間と子供たちとの会話の話題に繋がっている。緊急事態宣言による影響もあり人数や会話など、かなりの制限や気づかいで思うように活動ができなかった部分もあった。できれば近くに集まってわいわいがやがや賑やかにやりたいと思う。
NPO法人キーデザイン	遅延あり	LINE相談支援、親の会の実施などはニーズも高く、計画よりも多い利用を受けて進めることができている。 懸念は、居場所マップの配布方法について。制作自体はできるが、配布方法としてあげていた学校への直接配布という点において、教育委員会からの許可を得ることに難航しており、前に進めずにいる。教育委員会の承認を得て進めるためには、時間がかかる上（今年度中の配布は現実的ではない）に、内容についても自由度は減り、本当に困っている方に必要なものを作成することができるか危ぶまれる。時間が経つにつれて、子ども保護者の抱える問題は深刻化するため、早急にマップを作成し配りたいため、何を優先すべきか、また他に方法はないか、11月中に社内で調整し決定を下す。
特定非営利活動法人とちぎみらいwithピア	遅延あり	日程の遅れはあるが、想定活動を順次進めている。懸念点は、活動拡大の部分にある。オンデマンド研修の募集作業がコロナウイルス緊急事態宣言発令があり、当初予定をしていた、事業対象者へのリーチが、緊急事態宣言の再発動により、リアルではスムーズに行えない状況となっており、遅延あり。不確定な見通しの中で、変化に対応しうる事業計画への更新検討を、現場の声を確認しながら実施をしていく予定。
一般社団法人えんがお	ほぼ計画通り	全体的には、概ね予定通り実行できている。電話による健康確認サービスは当初の想定以上の効果が得られた。また、研修会の意見から生まれた「文通サービス」も高齢者・学生共に喜ばれ、人によっては手紙が楽しくて返事を書く前に追加で手紙が届くようなケースも2ケースあった。グループホームから地域サロンに参加する人も増え、精神・知的障害を抱えた人と地域の高齢者が日常的に交流することが増えた。加えて、想定していなかった部分として、不登校生の問い合わせやサロン参加が増え、不登校生に対するサービスの充実やスペースの確保が必要となった。
特定非営利活動法人フードバンクうつのみや	遅延あり	きずなセット提供プロジェクトは2021年8月・9月・10月に各1回ずつ実施し、今後も毎月1回のペースを継続していくため順調に進んでいるが、提供件数については大幅な下方修正が必要。泉が丘支所の補修・改修については概ね予定通り。 2021年7月～9月に感染拡大した新型コロナウイルスの影響で、内向き・外向き勉強会の開催、他FB団体に取材に行けず情報誌の作成が遅れている。新食品倉庫の確保については候補2件が契約に至らず頓挫している状況である。
特定非営利活動法人那須高原自然学校	遅延あり	コロナによって予定していたイベントの日程が大幅にずれている。ただ、コンソーシアムによるキッズネイチャーフェスは他団体との顧客の共有や情報交換ができた。また、スタッフに向けての勉強会を開催して、コロナ禍だからこそ子どもたちには自然体験が必要だということが再認識できた印象。人数の制限やコロナ対策を引き続き行いながら団体間の連携を図っていく予定。フードバンクうつのみやとも連携を取って学童にて出張でネイチャークラフトも行った。
サロンみんなの保健室	ほぼ計画通り	健康相談は面談は延べ44名、電話相談延べ49件、合計93名で目標80名を上回る。老人会との交流会7月、9月の2回開催。セミナーは2回開催する。他団体との連携・協働は3団体（そらいろコアラ・フードバンク・宇都宮市つなサポ）地域では9月に西地区民生委員3名と打ち合わせをして、孤立が心配の家屋に『みんなの保健室』のチラシを配布した。11月～障害者就労支援センターで利用者を対象に健康づくりセミナーを毎月一回開催することになった。『みんなの保健室』での健康セミナーは毎月1回、公開で企画している。

非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
月1回の実施状況の確認と事業実施に関するオンラインメンタリング	ほぼ計画通り	各実行団体に対して1人、専任の事務局を担当にし、各団体の進捗確認を月一回以上（主に月末）行っている。 現在、専門的なメンタリングができていないが、先日行ったアドバイザリーボードからのフィードバックを参考にしながら、これから密なコミュニケーションを図っていく。
4か月に1回、助成対象団体が一堂に会し(オンライン)それぞれの実施における課題、新たに増えてきたニーズや構造、組織的課題等の共有と対応策の協議	計画通り	オンライン・オフラインにて、2か月に1回、集合の進捗報告会を行い、団体間でフィードバックを行い合う場を作っている。 この活動共有の成果として、実行団体の新たな取り組みや、実行団体の連携が生まれた。具体的には、一般社団法人えんがおにて、高齢者と大学生の文通の取り組みや、特定非営利活動法人フードバンクうつのみやが配布する食品セットを特定非営利活動法人サロンみんなの保健室の事務所に置き、配布するといった連携が生まれた。その他、連携が起こっているが、事業領域の違う団体が連携し新しい事業が生まれており、本取り組みの大きな成果だと言える。 これまで、6月29日、8月24日、10月26日にそれぞれ実施した。うち8月24日はオンラインによる実施。
マネジメント研修の実施(全5回、ミッション・ビジョンの確認、ターゲット・ニーズの分析、事業開発・ビジネスモデル開発、プロモーション戦略、内部管理)	ほぼ計画通り	株式会社モジョコンサルティングの長浜洋二様に全5回の研修をしていただいた。 6月29日にはミッション・ビジョン・バリュー、事業の成果評価について、8月24日にはターゲット、広報・プロモーションについて、10月26日は多様なパートナーシップについての研修を行った。 研修の満足度などをアンケート等で把握してはいるが、早速研修で学んだことを団体全体に共有するような実行団体もいる。
他地域の「休眠預金プログラム」参加団体の取り組み事例共有とオンライン等による情報交換会の実施。	ほぼ計画通り	12月19日、佐賀未来創造基金の山田さんと意見交換を予定している。
支援対象団体の活動状況をSNS,HP等で随時発信し、その団体への関心をもち、参画する市民を広げて、仲間が広がる支援を実施。	ほぼ計画通り	休眠預金実行団体の活動を広く周知するためにも、当会の中でも、特に助成金などを扱う部門である「とちぎコミュニティ基金」のHPを整備した。現在団体情報ページを作っている。今後は、実行団体の活動について取材し、記事をブログとして公開していく予定である。 また、実行団体がイベントをする際などは、TwitterやFacebookでの情報拡散を行っている。なお、実行団体間の連携強化のために、イベント情報などは他の実行団体へ毎回メールで伝達している。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>本事業終了後（3年後）の目標として以下3点を想定した。</p> <p>①「もうひとつのセーフティネット会議」の構成団体が増えている状態。②助成採択団体の職員とボランティアによる事業提供時間が増加と会員や寄付などの支援が増加し、安定して課題解決へのサービス提供と開発が続けられている状態。③高校生・大学生・若手社会人等の若者たちがそれぞれの団体にインターンシップやボランティアなど積極的かつ継続的に関わりあっている状態。</p> <p>今期については、それぞれの団体での実行力、受け入れ(ボランティアマネジメント力)、外部資源と連携するコーディネート力等の力を高めつつある段階と認識している。団体間の連携が当初の想定よりも、実効性ある連携が起きており、「もうひとつのセーフティネット」の実現に期待できる。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥19,854,644	¥19,854,644	¥19,854,644	100%
	管理的経費	¥0	¥4,286,500	¥4,286,500	¥2,311,784	54%
プログラム・オフィサー関連経費		¥0	¥2,228,100	¥2,228,100	¥1,889,953	85%
合計		¥0	¥26,369,244	¥26,369,244	¥24,056,381	91%
補足説明						

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>実行団体から挙げられたリスクや課題については、フィードバックをし、新しい事業展開を生むことができた。</p> <p>一方で、課題を挙げてくれた以外の団体との密なコミュニケーションを取れておらず、全ての団体の課題感や事業実施中の所感の把握を十分にできていない。アドバイザーボードからいただいた各実行団体へのフィードバックを参考にし、そこで挙げられた課題を実行団体と解決していくという動き方を取りながら、団体の未来を共に作るコミュニケーションを図っていく。</p>

VII. その他

自由記述

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	有	・下野新聞にて休眠預金実行団体募集の記事が掲載された。
広報制作物等	有	・休眠預金実行団体募集告知のチラシを作製。県内全NPO、まちづくりセンター、社会福祉協議会などに約1200部配布した。 ・コミュニティ基金HP作成 (https://tochicomi.org/kyumin2021/)
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	開催しています(社員総会 5/30オンライン、理事会 5/26、等)
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	「公益通報者保護に関する規程」の通り
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	実施していない
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	ホームページにて、公開しています。とちぎボランティアネット
5. コンプライアンス委員会は定期的を開催されていますか。	いいえ	実施していない